

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 6 月30 日

【評価実施概要】

事業所番号	4770400010
法人名	社会福祉法人 榕樹会
事業所名	グループホーム 沖縄一条園
所在地	沖縄県沖縄市字与儀453番地の1 (電話) 098-932-9376

評価機関名	社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年6月17日

【情報提供票より】(H20年4月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 20年 6 月 17 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89.5歳	最低	81歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	コザクリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは母体である特別養護老人ホームに隣接し、フェンスに囲まれた静かな環境である。居室は明るく、庭へ自由に出入りできる造りになっている。備え付けのベットと腰高の収納用ボックス以外は入居者の馴染みのタンス等が持ち込まれ個性ある部屋が多く見られた。入居者と職員の明るい表情と広い共用空間は、日頃のゆったりしたケアを裏付けるものが感じられた。入居者が安心し家族の一員であるという意識とそれぞれの役割、そして、地域との交流を模索している今、更なるグループホームの活動に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回は平成19年3月に外部評価が行われ、理念等22項目が要改善となっていたが、管理者及び介護支援専門員が兼務のため取り組みの中心となるリーダーがいなく、改善に至っていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年度から介護支援専門員が専従で配置になり、評価項目を分担し全職員で記入し、最終的に管理者と調整し作成した。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>昨年9月に国・市の指導を受け、不定期に実施していた会議を2ヶ月毎に定例化し実施している。その結果、委員からいろいろな提案や要望が出され活発になっている様子が記録からも伺われる。特に自治会長や民生委員からの声が多く、地域との連携の足がかりにしたいと熱気を感じられる。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>設立5年目になり、家族の面会者も固定化し、来所者も2週間に1回程度がほとんど、施設への要望もない。今年中に家族会を立ち上げ、連携を深めていきたいと意欲的である。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>管理者が園長兼務のため市内への地域行事への案内に地元出身者を参加させることで、入居者により影響が見られている。地域との交流・連携の大切さを痛感し、地元自治会との連携強化に向け努力していきたいと意気込みが見られ今後期待したい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在、母体法人の理念と処遇方針を介護目標にしている。今後、職員と共に当事業所の理念について話し合っていく。	○	事業所独自の理念を、早い時期に職員と話し合っ作り上げたいということなので期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に母体の理念について説明している。朝の申し送りに気づいた時職員で共有することもある。	○	新しい理念の作成後は、定例の会議やケアの中で理念の確認をしたり、共有するなど、今後事業所の原点として大切に育てたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今のところ行事案内時の参加が主流である。今後は地域の自治会と積極的に交流していきたいと自治会長とも話し合っている。	○	運営推進会議を通し、グループホームへの理解が深まりつつある。自治会活動に積極的に参加し、地域との顔なじみの関係を作りたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員の意見を聞き作成し、意義は理解している。前回の外部評価の結果については話し合いたが取り組んでいない。また、話し合いの記録がない。	○	評価の意義、前回の評価結果については職員も理解している。改善が図られなかったのは管理者・介護支援専門員が兼務で、中心的役割を果たす人がいなかったことが考えられる。今回、専従の介護支援専門員が配置されたことで大きく期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年9月国・市の指導があり、現在2ヶ月毎に開催している。委員の馴染みの関係と推進会議の理解が深まりいろいろと献身的な意見も多くなっている(民生委員から受け持ち地区の中高校生のボランティア参加など)。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度改正により市との関わりが取りやすくなった。運営推進会議の委員として、2人の介護相談員が毎月派遣され、連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は月2回程度で来所は少ない。家族来所時や状態変化があった時報告している。グループホーム便りは不定期に発行し送付している。	○	来所者の少ない家族もあるので、施設側からの積極的な報告が求められる。母体施設の広報委員会を通しグループホーム便りを発行しているが、職員に広報係をおき連携を深くし定期的な発行(毎月)が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は設置しているが投函はない。家族来所時懇談するよう心がけ聞き取る努力をしているが殆ど意見はない。運営推進会議へ家族代表が参加しているが意見等少ない。今年中に家族会を立ち上げる計画があり、連携に期待がもてる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の大幅変動はなく、入居者との馴染みの関係を優先的に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人が行う研修は交替で参加させている。関係機関等の研修案内がある時は、非番の人などが参加している。グループホーム独自の研修や職員個々の研修計画が立てられてない。	○	全職員が必ず参加できるよう職員個々の研修計画や、グループホーム独自の研修計画が欲しい(OJT)。職員の資格等への支援はサービスの資質向上へ繋がるので積極的な取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県連絡協議会が主催する研修や相互訪問等情報交換をしている。市内の事業所(3事業所)の交流会はないが、お互い連携はとられており、職員同志の交流もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1日入居体験や家族の寝泊まりなどを実施したり、家族と共に好みに合わせた居室作りを行ったりなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	沖縄の「クガニコトバ」や子どもの頃の体験、食生活を教えて貰ったりしている。職員・入居者の笑顔と話題の多いコミュニケーションからも良好な関係が伺われる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりながら希望や意向を把握し、出来るだけ受容している。最近、入居者の希望で庭で子犬を飼っている。子犬と語り合ったりし表情も明るくアニマルセラピーの効果を実感していると語っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からのアセスメント後、ケアに関わる職員で介護計画を作成している。介護計画書の作成に家族の参加が不十分である。	○	本人・家族から情報を得ることだけでなく、ケアのあり方についても本人・家族の意見を聞き、必要な関係者でケアプランの話し合いを持ち、共有することが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じ対応しているが、申し送りでの報告のみで見直しされた記録は残していない。また、変化のない入居者の場合は評価・見直しは特にしていない。職務会議の開催も不定期である。	○	介護計画の見直しがされた場合、記録で残すことはケアの共有及び確認する上で重要である。また、変化がみられない入居者についてもケアの再確認のために介護計画の期間を設定し見直しを行って欲しい。そのため、ケア会議(又は職務会議)を定例化し、介護計画の見直し及び記録について検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人及び家族の暮らしを守るための多機能性については充分検討してなく、職員への負担を考慮して現在行っていない。	○	入居者の置かれている状況や要望に合わせた柔軟な対応が求められる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族が対応するよう入居時説明しており、当事業所は情報提供を行っている。かかりつけ医との直接な関係はない。	○	日々のケアを行っているのは事業所であり、家族もかかりつけ医からの質問に状況の説明が出来ないことも推察される。サービスを行う上で注意の必要な入居者、困っている入居者については適切な医療とケアのために家族等の希望を大切に時には受診支援は必要と思われる。家族、職員の声を聴き検討して欲しい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度化や終末期については他施設へ移動している。入居者の平均年齢も90才に近いことから大きな課題である。他の事業所からも情報収集し、家族との話し合いも検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時プライバシーの確保については説明し理解を得ている。日頃の支援の中でも気配りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に合わすのではなく、その日の体調と希望に沿って本人のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、母体厨房から配食されており、配膳・片づけを一部手伝っている。献立にモヤシが使われる時は根の切り取りをしている。時々自分たちでおやつのはイヤーチーなど作っている。	○	食事の献立を入居者で話し合っ作り、一品でも自分たちで調理するなどし、自分の家だという意識をもっと高める機会にして欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別の週間スケジュールがあり、週3回が基本であるが、本人の希望に沿って対応している。入浴拒否のある入居者は、本人のタイミングに合わせ早朝あるいは夕方に支援するなどしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特技や出来る力を活かし、大正琴、書道、手工芸などの楽しみごとや食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみなど一人ひとりの力を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホーム内の庭の散歩は部屋や玄関から自由に行っており、職員と母体施設周辺を散歩したりと日常的に外出を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に入出入りしており、職員は目配り、気配りで見守りしており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体である特養での防災訓練が年2回行われているが、グループホームでの訓練は行った事がない。緊急時のマニュアルも母体との連携が煩雑である。	○	当グループホームは母体関連施設の入り口から奥側にあり、フェンスで囲まれており、特に夜間一人勤務の場合の対応に課題がある。具体的なシュミレーションでの訓練、避難場所の共有認識の確認、母体との緊急ベルの設置が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取のチェックシートがあり、割合で摂取量を表示している。入居者の体調把握に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく広々とした空間が確保され、畳の間もあり、季節感の工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、タンスやテーブルなどの家具、写真や絵などの装飾があり、入居者の個性が感じられる。		